（別紙様式4）

令和5年10月20日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大原自動車工科専門学校 大分校	平成30年9月25日	平田　浩司	〒　870-0839 （住所）　大分県大分市金池南1-2-24 （電話）　097-574-6568
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人　大原学園	昭和54年4月1日	中本　毎彦	〒　101-0065 （住所）　東京都千代田区西神田1-2-10 （電話）　03-3292-6266

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	二級自動車整備学科	令和2(2020)年度	－	令和4(2022)年度

学科の目的	本学科は教育基本法、学校教育法及び私立学校法に準拠し、モータリゼーション化等の社会において、自動車整備の分野を担うために必要な基本的原理を理解し、専門的能力と実践的技術を身につけた人間性豊かな社会人を育成することを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	■取得可能な資格 二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、二級2輪自動車整備士、中古自動車査定士、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、自動車メカニック検定、電気自動車等の整備の業務に関わる特別教育、危険物取扱者（乙種第4類） ■中退率：4.34%

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,818 単位時間 単位	716.4 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,218.6 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
80 人	59 人	13 人	22 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 24	人
■就職希望者数 (D)	: 24	人
■就職者数 (E)	: 24	人
■地元就職者数 (F)	21	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	88	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

特になし

（令和　　4 年度卒業者に関する令和５年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和4年度卒業生）

大分トヨタ自動車株式会社、ネッツトヨタ東九州株式会社、トヨタカローラ大分株式会社、大分日産自動車株式会社、日産プリンス大分販売株式会社、株式会社スズキ自販大分　他

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：無

評価団体：－　　受審年月：　－　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　－

当該学科のホームページURL

URL：https://oita.o-hara.ac/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,818 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	32.4 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	32.4 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	32.4 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		3 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

①卒業生の主な就業先である自動車関連企業等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
②自動車整備に関する知識・技術の習得、自動車新技術の学習等の教育内容について、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

①位置づけについて
教務課の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。
②意思決定の過程について
（ア）学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
（イ）委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
（ウ）教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、教務部次長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程（授業科目、内容、手法）の編成に反映させることができる。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
北村　憲宏	一般社団法人大分県自動車整備振興会 教育指導課 課長代理	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	①
住原　裕志	大分トヨタ自動車株式会社 営業本部 サービス部 技術トレーナー 課長補佐	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	③
四井　毅	大分日産自動車株式会社 サービス部 サービスグループ 課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	③
平田　浩司	大原自動車工科専門学校大分校 校長	―	―
鳴海　清志郎	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 次長	―	―
髙野　克浩	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 教務2課 課長補佐	―	―
山本　正樹	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 教務2課	―	―
中村　亘貴	大原自動車工科専門学校大分校 教務部 教務2課	―	―

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（8月、12月）

（開催日時（実績））
第1回　令和4年　8月18日　15:30～17:00
第2回　令和4年 12月 1日　15:30～17:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
■ビジネスマナー教育の充実について
2年次『自動車キャリアデザインⅡ』の科目において、接客マナー・電話応対等のビジネスマナー教育を実施した。
■内定後インターンシップの導入について
2年次『自動車キャリアデザインⅡ』の科目において、内定企業でのインターンシップを実施した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
①企業等と打ち合わせを実施し、教育課程を編成する。
②企業等による実習授業を実施し、学生のより専門的な技術・知識の習得に加え、社会人としての意識改革を実現する。
③企業等へ知識・技術の習得状況について、実践で活かせるレベルか否かの評価を仰ぎ、学習成果の評価へ反映させる。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
職業実践の趣旨を企業等に説明し、ご理解頂いたうえで打合せを行い、下記の3点について授業内容の質向上のために連携している。
① 企業担当者と打ち合わせを行い、授業日程、連携内容、到達目標、実施方法について調整する。
② 企業連携実習授業を実施する。
③ 実習授業終了時の総合評価を実施し、学習成果の評価へ反映させる。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
基本作業実習Ⅰ	自動車の基本的な整備技術を学ぶ	株式会社 スズキ自販大分

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。「大原学園教職員研修規定」の目的に定めるとおり、教職員が専門分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるために、教員研修の環境を整える。研修については、校内・校外において計画的に行っており、教育責任者の指示又は本人の意思により、公平に受講する機会を与えている。なお、校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおり。
①企業・団体・学術機関等の講師を招いた知識・指導スキル研修（校内研修）
②教育本部・講座本部が主催する知識技能、指導力の向上のための研修（校内研修）
③学内に設置する附帯教育講座を利用しての自己啓発（校内研修）
④企業、団体等が開催している研修・講義等への参加（校外研修）

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　自動車新技術研修　　連携企業等：日産自動車株式会社
期間：　令和4年11月21日（月）　　対象：二級自動車整備学科担当教員
内容　電気自動車、自動運転等の自動車新技術に関する構造・整備上の注意事項を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　指導力の修得・向上のための教員研修　　連携企業等：ナラティブコミュニケーション教育研究所
期間：　令和4年12月20日（火）　　対象：大原学園大分校教職員
内容　多様な学生への関わり方や、学生のやる気を引き出す接し方について学び、ロールプレイングで実践する。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　日産技術講習会　　連携企業等：日産自動車株式会社
期間：　令和5年8月1日（火）　　対象：二級自動車整備学科担当教員
内容　電気自動車、自動運転等の自動車新技術を学ぶ。

研修名：　学校関係者向けトヨタL&F説明会　　連携企業等：（株）豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー
期間：　令和5年8月4日（金）～5日（土）　　対象：二級自動車整備学科担当教員
内容　フォークリフト、物流システム等の新技術を学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:　指導力の修得・向上のための教員研修　　連携企業等: ナラティブコミュニケーション教育研究所

期間:　令和5年12月19日（火）　　対象: 大原学園大分校教職員

内容　多様な学生への対応方法について学び、ロールプレイングで実践する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
（2）学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
（3）教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
（4）学修成果	①就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
（5）学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。

(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行われているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	―

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・挨拶、報連相等の基本的なビジネスマナーはもちろんのこと、メカニックとしてのプロ意識を持つことができるように取り組んでほしいとの意見をいただいた。2年次のビジネスマナー教育を充実させると共に、2年次12月の自動車整備技能発表会への取り組みを通して、社会人としての意識をつけさせるようにカリキュラムをブラッシュアップした。

・教員の資質向上への取組みとして、専攻分野における実務に関する研修について、外部の研修に参加し、教職員の知識力、学生指導力を向上させるようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
北村　憲宏	一般社団法人大分県自動車整備振興会 教育指導課 課長代理	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
住原　裕志	大分トヨタ自動車株式会社 営業本部 サービス部 技術トレーナー 課長補佐	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
四井　毅	大分日産自動車株式会社 サービス部 サービスグループ 課長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員
姫野　夏希	株式会社スズキ自販大分	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	卒業生

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))

URL:　https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期:　令和5年10月20日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、関係業界、地域住民、保護者等、中学校・高等学校関係者、所轄庁など関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携・協力の推進に資する観点から、積極的な情報提供に取り組む。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①概要　②教育方針　③沿革
（2）各学科等の教育	①入学定員　②受入方針　③カリキュラム　④進級、卒業要件等 ⑤専門士の称号付与　⑥目標とする国家試験、検定試験等 ⑦主たる国家試験、検定試験等の合格実績　⑧卒業生の進路
（3）教職員	①教職員数　②教職員の専門性
（4）キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育　②実習・実技等　③就職支援等
（5）様々な教育活動・教育環境	①学校行事　②課外活動
（6）学生の生活支援	①完全担任制　②就職教育
（7）学生納付金・修学支援	①学生納付金　②奨学金、学費減免等
（8）学校の財務	学校の財務状況公開
（9）学校評価	学校関係者評価結果
（10）国際連携の状況	―
（11）その他	―

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

ホームページ　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）

URL：　https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期：　令和5年10月20日

授業科目等の概要

	（工業専門課程二級自動車整備学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ガソリン・エンジン構造学Ⅰ	ガソリンエンジンの構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
2	○			ガソリン・エンジン構造学Ⅱ	ガソリンエンジンの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
3	○			ジーゼルエンジン構造学Ⅰ	ジーゼルエンジンの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
4	○			シャシ構造学ＡⅠ	シャシの構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
5	○			シャシ構造学ＡⅡ	シャシの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
6	○			シャシ構造学ＢⅠ	シャシの構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
7	○			シャシ構造学ＢⅡ	シャシの構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
8	○			自動車工学Ⅰ	自動車に関する計算を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
9	○			自動車工学Ⅱ	自動車に関する計算を学ぶ	2前	21.6	1	○			○		○		
10	○			電気・電子理論	電気・電子の理論を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
11	○			電装品構造学Ⅰ	電装品の構造を学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		

12	○			電装品構造学Ⅱ	電装品の構造を学ぶ	1後	16.2	1	○			○		○		
13	○			整備作業機器	整備作業機器の構造や取扱いを学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
14	○			工業計測	計測機器の構造や取扱いを学ぶ	1前	16.2	1	○			○		○		
15	○			図面Ⅰ	図面の読み方及び書き方・各記号や線の理解	1前	16.2	1	○			○		○		
16	○			ガソリンエンジン整備法	ガソリンエンジンに関する知識を身に着ける	2前	25.2	1	○			○		○		
17	○			ジーゼルエンジン整備法	ジーゼルエンジンに関する知識を身に着ける	2前	25.2	1	○			○		○		
18	○			シャシ整備法Ａ	車体整備に関する知識を身に着ける	2前	25.2	1	○			○		○		
19	○			シャシ整備法Ｂ	車体整備に関する知識を身に着ける	2前	25.2	1	○			○		○		
20	○			電装品整備法	自動車電気装置に関する知識を身に着ける	2前	25.2	1	○			○		○		
21	○			故障診断学ガソリンエンジン	ガソリンエンジンに関する整備士試験の演習問題を解く	2後	32.4	2	○			○		○		
22	○			故障診断学ジーゼルエンジン	ジーゼルエンジンに関する整備士試験の演習問題を解く	2後	32.4	2	○			○		○		
23	○			故障診断学シャシＡ	シャシに関する整備士試験の演習問題を解く	2後	34.2	2	○			○		○		
24	○			故障診断学シャシＢ	シャシに関する整備士試験の演習問題を解く	2後	34.2	2	○			○		○		
25	○			故障診断学電装品	自動車電気装置に関する整備士試験の演習問題を解く	2後	32.4	2	○			○		○		

26	○			特殊機構	自動車に用いられる特殊装置を学ぶ	2前	16.2	1	○			○		○		
27	○			材料・燃料・油脂	自動車の材料と燃料、油脂に関する内容を学ぶ	2前	16.2	1	○			○		○		
28	○			自動車検査	自動車に関する法律を学ぶ	2前	21.6	1	○			○		○		
29	○			自動車関係法令	自動車に関する法律を学ぶ	2後	21.6	1	○			○		○		
30	○			工作作業実習	工作道具、工具を使用し金属加工を行う	1前	34.2	1			○	○		○		
31	○			基本作業実習Ⅰ	自動車の基本的な整備技術を学ぶ	1前	32.4	1			○	○		○		○
32	○			基本作業実習Ⅱ	テスターの組み立てと電気の測定方法を学ぶ	1前	34.2	1			○	○		○		
33	○			基礎自動車整備作業実習ＡⅠ	自動車のリフト作業とブレーキ関係を学ぶ	1前	86.4	2			○	○		○		
34	○			基礎自動車整備作業実習ＡⅡ	自動車のエンジンに関する整備と測定を学ぶ	1前	86.4	2			○	○		○		
35	○			基礎自動車整備作業実習ＡⅢ	自動車電気装置の整備について学ぶ	1前	86.4	2			○	○		○		
36	○			基礎自動車整備作業実習ＢⅠ	エンジンの分解組み付けを行いエンジンに関する整備方法を学ぶ	1後	82.8	2			○	○		○		
37	○			基礎自動車整備作業実習ＢⅡ	自動車の法令点検について学ぶ	1後	82.8	2			○	○		○		
38	○			基礎自動車整備作業実習ＢⅢ	自動車のシャシ関係部品の分解、組付けを行う	1後	82.8	2			○	○		○		
39	○			基礎自動車整備作業実習ＢⅣ	自動車のエンジンに関する整備を学ぶ	1後	39.6	1			○	○		○		

40	○			基礎自動車整備作業実習ＢⅤ	自動車の電気回路について学ぶ	1後	39.6	1			○	○		○		
41	○			基礎自動車整備作業実習ＢⅥ	エンジンの制御を学ぶ	1後	32.4	1			○	○		○		
42	○			応用自動車整備作業実習ＡⅠ	２輪整備とトランスミッションについて学ぶ	2前	77.4	2			○	○		○		
43	○			応用自動車整備作業実習ＡⅡ	自動車の電気装置について学ぶ	2前	77.4	2			○	○		○		
44	○			応用自動車整備作業実習ＢⅠ	車体からエンジン、トランスミッション、ＡＣの脱着作業を行う	2後	68.4	2			○	○		○		
45	○			応用自動車整備作業実習ＢⅡ	自動車の電子制御を学ぶ	2後	70.2	2			○	○		○		
46	○			応用自動車整備作業実習ＢⅢ	ジーゼルエンジンについて学ぶ	2後	70.2	2			○	○		○		
47	○			自動車検査実習	自動車の法令点検を学ぶ	2前	75.6	2			○	○		○		
48	○			総合自動車整備実習	自動車整備士の総合的な技術を学ぶ	2後	43.2	1			○	○		○		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	修了・卒業の認定は、下記に定める授業時間（単位）の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。 二級自動車整備学科　　1,818時間（65単位）	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	（試験） 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。 （学業成績） 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。	１学期の授業期間	27 週